

報恩講をお勤めしました

一〇月三〇日に、報恩講をお勤めしました。新型コロナウイルスが下火になったとはいえ、まだまだ不安が多いことから、日程を一日のみに短縮し、ご法話もない法要となりましたが、多くの皆さんがお参りくださりにぎやかに



報恩講に先立ち、一〇月一六日には、門徒総出で「すすはき」をしていたことができました。昨年に引き続いて中止しないといけないかと案じておりましたが、役員さんが「是非やろう」と言ってくださ

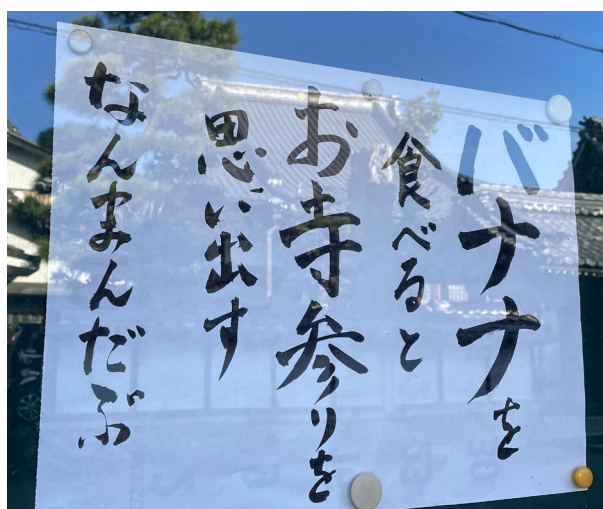
り頼もしくありがたかったです。みなさまありがとうございます。また役員さん、年行司さん、お花たてや幕つりなどご苦労様でした。

お気づきいただいたかと思いますが、本堂の照明がすべてLEDに変わりました。北川電化センター様の工事により、本堂が明るく綺麗に見えるようになりました。これまで隅のほうが薄暗かったり、お経の本が見づらかったりしたのですが、照明が明るくなったおかげで気持ちも明るくなり、お勤めの声にも元気が出てくるようです。

報恩講の当日は、秋晴れとなり暑くもなく寒くもない絶好のお参り日和となりました。おかげさまで多くの方がお参りくださり、ファイナーレには花火が打ちあがるサプライズまでありましたね。とはいえ、前住職がいよいよのはやはりさびしいですね。特に夜の座にお勤めした「初夜礼賛」は、これまで前任職の大きなお勤めの声を頼りにしていたので、少し間違えてしまいました

十一月(霜月) 予定
二〇日(土) お講 十一時

十一月六日(土)〜七日(日)は隣寺の安正寺さんの報恩講です。



た。バレてました? (住職)
食欲の秋とお寺参り

今月の掲示板はバナナです。報恩講や永代経などの法要では、バナナが供えられ、お参りの人にお下がりとして配られます。甘くておいしいバナナはみんな大好き。私はバナナを見ると「お参り」を思い出します。「腹が減っては戦ができぬ」といわれるとおり食欲があるのは生きるためのパワーを補

充することなのでとてもたいせつですね。でも生きていくためには食べるだけではどうにもなりません。仕事をしたり勉強したり、いろんなしがらみもあります。そんな私たちに心のパワーを与えてくださるのがナムアマミダブツの仏さまです。食欲もお念仏もどちらも私たちに必要なものと言えます。ところで、スーパーマーケットに行くといろいろな種類のバナナが並んでいます。しかも安い! 安いということは生産者が苦労して働いてくださっているからということも忘れてはいけないと思います。今日もおまいりを思い出しながら、バナナをありがたくいただきます。

年行司さんが交代されます。

堀ます子さん、尾田克弘さん、安達茂さん、一年間お疲れ様でした。林幸治さん、林健司さん、安



朝のお勤めライブ配信。
上のQRコードをスマホで読み取るか、「覚浄寺」で動画検索して下さい。

清 浄 光

覚浄寺だより

暮らしの中の仏教語

『結集』

けっしゅう。ばらばらになっ
てい
るものがまとまってひとつになる
こと。「総力を結集する」などと
言
いますね。

結集という言葉はもともと仏教
の出来事から始まっています。

私たちに仏さまの教えを説いて
くださったお釈迦様が亡くなられ
ると、そのお弟子たちがお釈迦様か
ら聞いた話をもとに説法をするよ
うになります。当時のインドには文
字がなかったそうで、このため、お
釈迦様の教えが少しずつ間違っ
て
広まっていきました。これを防ぐた
めに、お弟子たちが集まって、各自
が聞いた話を持ち寄り仏典（お経）
としてまとめる事業をおこないま
した。これを結集（けっしゅう）と
いいます。結集はお釈迦様がなくな
られてすぐに第一回が行われ、その
後、一〇〇年後に第二回、そしてア
シールカ王やカニシカ王の時代に
も開催されて仏典が編纂されてい
きました。中国の三蔵法師がインド
まで旅をしたのは、まさにこの仏様
の正しい教え（経・律・論の三蔵）

十一月（霜月）

奥山に

紅葉踏みわけ鳴く鹿の

声聞く時ぞ秋は悲しき

俵元太夫

を求めるためでした。

第2回の結集では、意見の違い
から二つの大きなグループに分か
れていくこととなります。大雑把
に言うと、ひとつは、お釈迦様が
説かれた教えをできる限り忠実に
実践していこうとするグループ
で、おもに南インドから東南アジ
アに伝わっていきました（上座部
仏教）。もうひとつは、地域の実情
に合わせて柔軟に実践方法を変え
ていこうとするグループです。こ
れが後に日本に伝わる大乘仏教
で、浄土真宗はその最前線の宗派
であるといえます。お釈迦様のお
弟子たちが総力を結集して話し合
ったおかげで仏様の教えが私たち
のところまで届いています。まさ
にお弟子たちが英知を結集した成
果なのです。世界の平和が脅かさ
れている今こそ、私たちも百年先、
千年先を見据えた結集が必要な
のではないのでしょうか。

住職「愛の不時着」にハマる

コロナで自粛が続いていたゴール
デンウィークに、韓国ドラマ「愛の
不時着」にハマってしまいました。
愛の不時着は、韓国の財閥令嬢が、
パラセイリングで竜巻に巻き込まれ
て北朝鮮に不時着し、そこで出会っ
た北朝鮮の男性と恋に落ちる物語で
す。ご存知のように韓国と北朝鮮は
戦争状態にあり、自由に往来できま
せん。さまざまな障害や危険の中で、
国の違いを越えて友情を育み、愛を
深め合っていきます。私がこのドラ
マを見たいと思ったのは、北朝鮮の
人たちが、こっそりと見ているとい
う記事を読んだからです。北朝鮮で
は韓国のドラマを見るのが犯罪と
され、もし見つければ強制労働など
の厳しい罰則を受けなければなら
ないそうです。それにも関わらず、危
険を冒してでも見るほどのドラマを
見てみたいと思ったからです。案の
定、すっかりこのドラマにハマってし
まいました。北朝鮮に関する情報と
いえば、ミサイルや核開発などの政
治や軍事に関することばかりです
が、そこに住んでいる人々は、私た

ちと同じように、ドラマを見て泣
いたり笑ったり、当たり前の日常
を送っておられるのだな、と思い
ました。ということ、で、「愛の不
時着」の主人公、リ・ジョンヒョ
クの言葉を紹介します。まるで阿
弥陀さまみたいです。

そばにいらなくても
いつも君が
寂しくないように
思っている

とても綺麗な朝焼け

日の出が随分と遅くなってき
ました。朝起きるのが億劫です
が、一日を精一杯過ごしましよ
う。

